

景観へのコンセンサス形成のための色彩ワークショップ

- 松江堀川風景デザイン塾（松江市まちづくりデザイン室・計画技術研究所企画）に参加して

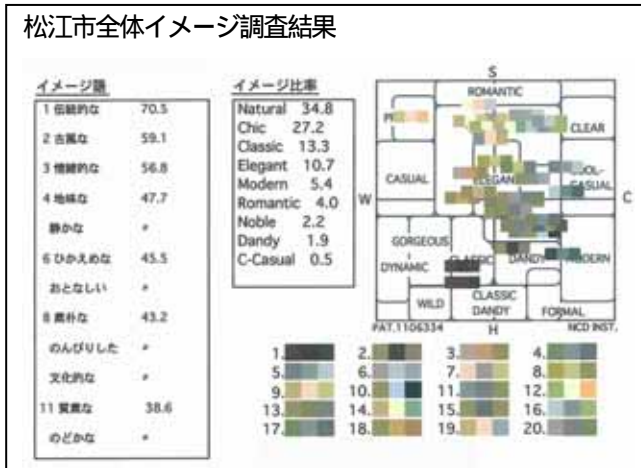
杉山朗子（株日本カラーデザイン研究所・関東ブロック）

1. 経緯 / まちづくりとしての景観への取り組み

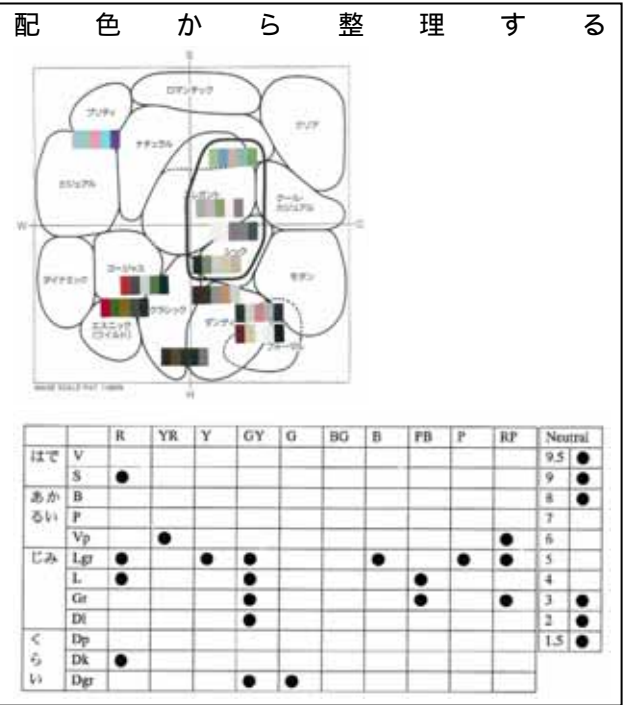
鳥根県松江市では、お城を巡る堀の整備を進め堀川遊覧が開始され全国に注目され観光客も増えつつある時期に、水辺の風景計画として緑と暮らすまちづくり事業に取り組み始め、市民参加型のデザイン検討の活動を継続して行ってきた。その堀川周辺の今後の整備指針を検討するために、橋及び色彩という視点からワークショップが開催された。具体的な要素に対する指針を作成し、市民全体への発表ならびに市のデザイン委員会へも具申を行い、今後へ役立てようという目的で行われた。

2. 事前調査及び話題提供

前年に別途色彩計画を実施した案件があり、松江全体のイメージや注目すべき景観資源についての調査はすでに行っていた。その結果と比較考察するため、このワークショップ参加者にもイメージ調査及びアンケートを行った。



- 針で写真撮影記録。その過程で不快、醜い、使いたくないという感覚がなぜ起こってくるのかに気づく。
- 3) 活かしたい色と再考すべき色の整理
- 4) 風土の特性を自分たちの言葉で語る
美しく感じる季節、時間帯、天候、気候
誇り・自慢
特徴的だと思う文化、習俗、風俗、風物
特徴的風景・自慢の風景・景色ならお勧めは何処
特徴的だと思う建築物は
食べ物、特産物
植物、花、樹木、動物、鳥
人柄、気風・気質
方言で表現する
- 5) 配色という方法で地域のイメージを表現&考察
- 6) 提案



3. フィールドワークの実施



- 1) 景観を発見する / 実際に歩くことによって目の前に広がる地形・風景・光景を捉える。
- 2) 記録・視点の発見 / 共通用語程度に色彩のシステムの解説を行った後、事前に住宅地、商業地というように大まかにブロックをとらえフィールドワークを行った。視界360度で、近寄って確認、という方

4. 色彩ワークショップの効用

- 1) 市民だれでも参加でき、知見を活かせる
- 2) 視界360度を色で見ると、生活を発見できる
- 3) 色を見ていくと、素材もデザインも見えてくる
- 4) 色で表現してみると言葉や五感の感覚もわかる
- 5) 調査結果の意味を理解できる
- 6) デザインの共通感覚（コンセンサス）を確認できる
- 7) デザインの評価基準を言葉で表現できるようになる